

目録の10回開催
高松で

三方良し公共事業カンファレンス 過去に学び新たな一歩

三方良しの公共事業推進研究会（砂子邦弘理事長）は10日、地域建設業新未来研究会と共催による「三方良しの公共事業推進カンファレンス」を、高松市のかがわ国際会議場で開いた。2007年5月の初開催から10回の節目を迎え、「10年の軌跡から学び、

新たな一歩を踏み出す」をテーマに設定。会場を埋め尽くす約230人の来場者があった。写真。



冒頭、砂子理事長は「担い手不足など建設業にとって、将来の課題は山積している。10年の三方良し研究会の活動を振り返る中で、新たな一歩

を踏み出すきっかけになってほしい」とあいさつ。来賓の石橋良啓四国地方整備局長は「担い手3法の精神も三方良しの公共事業推進の考え方に通じている。カンファレンスを通し、過去から学び、三方良しの活動をさらに広げてほしい」と期待を込めた。

カンファレンスでは三方良しの公共事業推進の「産みの親」でもある元北海道局長の奥平聖西日本高速道路取締役常務執行役員が10年にわたる活動を振り返るとともに、担い手の確保に向けた取り組みをテーマに畠中秀人四国地方整備局企画部長が講演した。

トークセッションでは、奥平氏と石橋氏に岸良裕司ゴールドドラフトコンサルティング日本代表と熊谷一男三方良しの公共事業推進研究会理事が加わり、「三方良しの公共事業改革」をテーマに新たな三方良しの道筋について意見が交わされた。また、全国の事例として新潟県と研究会新潟支部、一三北路（札幌市）、寿建設（福島市）、磯部組（高知県奈半利町）、内山建設（宮城県日向市）が実践する三方良しの取り組みも紹介された。

